

# 平成30年度試行調査の問題に見る 「大学入学共通テスト」で 求められる力と その育成のあり方

まもなく迎える 2019 年度は、「大学入学共通テスト」実施の前年度となる。あと2年間で、生徒にどんな資質・能力を、どのような指導を通して身につけさせればよいのか、多くの教師が模索しているようだ。その指導を考える上での指針ともなるのが、大学入試センターが実施する「大学入学共通テスト」の導入に向けた試行調査（プレテスト）だ。そこで、今号では、2018年11月10日、11日に実施された2回目の試行調査で出された問題の分析を通じて、「大学入学共通テスト」で求められる力と、その育成に必要な指導のあり方について考えていく。

## 「大学入学共通テスト」の導入に向けた平成30年度試行調査（プレテスト）実施概要

区分	A日程		B日程	
会場	各大学が設定（監督者は各大学の教職員）			
日程	平成30年11月10日（土）午後		平成30年11月10日（土）、11日（日）の2日間 午前・午後	
対象者	高等学校2年生以上 （中等教育学校後期課程の相当する学年を含む）		原則、高等学校3年生（中等教育学校後期課程の相当する学年を含む） ※各校の実情により、履修が終了している場合は、高等学校2年生の受検も可能。	
受検者数	68,409人			
形態	全員が国語、数学①を受検		パターン 1 2	受検パターンにより実施教科・科目が異なる
実施教科・科目	国語	「国語」（100分）	○ ○	国語 「国語」（100分）
	数学①	「数学Ⅰ・数学A」（70分）	○ ○	数学① 「数学Ⅰ・数学A」（70分）
			○	数学② 「数学Ⅱ・数学B」（60分）
			○	地理歴史・公民 「世界史B」「日本史B」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」から2科目（130分）《2科目必答》
			○ ○	外国語 「英語（筆記（リーディング）」）（80分） 「英語（リスニング）」（40分）
			○	理科① 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目（60分）《2科目必答》
		○	理科② 「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目（130分）《2科目必答》	

\*独立行政法人大学入試センター「平成30年度試行調査（プレテスト）実施概要」を基に編集部で作成。

## 本号のテーマ

平成30年度試行調査の問題の分析を通じて考える、  
「大学入学共通テスト」で求められる力と、その育成に必要な指導のあり方

## 1 平成30年度試行調査の出題の特徴

「大学入学共通テスト 平成30年度試行調査」教科・科目別出題分析【P.4～22】

特徴  
1

「社会とのかかわり」や「探究活動」を意識した問題設定

- ◎すべての教科・科目で、「日常生活」や「社会の事象」を意識した素材を出題
- ◎グループワークの場面が扱われるなど、「探究」を意識した出題

特徴  
2

複数の資料を読み取り、情報を統合・考察する力の重視

- ◎「文章」だけでなく、「グラフ」「図表」など、複数の資料が扱われる
- ◎文章や資料なども含め、現行のセンター試験より全体的に分量が増加し、思考力・読解力がより問われる

特徴  
3

記述式問題+新形式のマーク式問題により、解答形式が多様化

- ◎根拠を示しながら論理的に記述する力が問われる（国語、数学I・A）
- ◎「正解が複数ある」「解なし」など、従来とは異なるマーク式設問



現場の教師の多くが挙げた、今回の試行調査の問題を解く上で  
求められたと感じた力＝「**読解力**」

## 2 求められる「読解力」と、その育成に必要な指導のあり方

座談会  
【P.23～26】

生徒の自由な思考、多様な意見を  
教師が価値づけしていく授業を



国語科  
大阪教育大学附属高校天王寺校舎  
河田 良子

思考を活性化させる問いづくりには、  
教師同士の研鑽が必要



数学科  
東京都立西高校  
寺島 求

「読解力の育成」を教科共通の課題と  
することで、カリマネ、を推進する



地理歴史科  
神戸大学附属中等教育学校  
高木 優

生徒は授業中の試行錯誤によって  
本質に迫る読解力を獲得する



理科  
高知県立高知西高校  
高野和幸

事例

【P.27～30】

エッセー作成を通して、多様な情報を整理し、  
自分の言葉でアウトプットする力を養う

大阪府・私立明星中学校・高校